

祈りの言葉

本日、ここに、水俣病犠牲者慰霊式が執り行われるにあたり、謹んでお亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様方に対しまして心より哀悼の意を表します。

当社は、ここ水俣の地で創業し、水俣市、及び周辺市町村の皆様を支えられ、地域とともに歩みながら事業活動を続け、今年で115年を迎えることができました。

この間、当社の工場廃水に起因する水俣病を惹き起こし、多くの方々が犠牲になられましたこと、そして地域の皆様にも多大なご迷惑をおかけしましたことは、痛恨の極みであり、ここに衷心よりお詫び申し上げます。

当社は、患者の皆様に対する補償責任の完遂を経営の至上命題に掲げ、必死の努力を重ねてまいりましたが、この補償責任を果たしていく決意は、今後も決して変わることなく継続してまいります。

3年以上にわたって、世界中で蔓延した新型コロナウイルス感染症は、国内外でのウィズコロナ政策への転換により、感染症拡大前の生活様式に戻りつつありますが、まだまだ予断を許さない状況にあります。また、長期化するウクライナ情勢や欧米における金融システム不安などにより世界経済は一層混迷を深めており、事業会社であるJNCの経営環境も依然として厳しく先行きが不透明な状況が続いております。

このような厳しい環境下ではありますが、主力工場である水俣製造所を始めとする当社グループにおきましては、水俣病の反省に立ち、常に環境、安全に配慮したものづくりに努め、豊かで健康的な生活と持続可能な社会の創出に向けた事業活動を精力的に進めております。

中でも、再生可能エネルギーである水力発電の有効活用によるカーボンニュートラルの推進や、ライフケミカル製品を始めとした人の健康を担う製品の開発や安定供給に努めることにより、社会的課題の解決に向け積極的に取り組んでおります。

これらの取り組みを通じ、早期の収益回復を実現させ、安定かつ持続的な経営基盤の確立に努め、患者の皆様に対する補償責任の完遂と地域社会の発展に貢献してまいります。

そして患者の皆様が安心して暮らしていただけるよう、関係自治体が検討される必要な施策に対しましても協力してまいります。

これらのことが犠牲となられた方々の鎮魂のため、また、国、県、関係各位並びに地域の皆様からのご支援にお応えするための当社の責務であり、これからもより一層の経営努力を重ねてまいりますことをここに誓いし、祈りの言葉といたします。

令和5年 5月 1日

チッソ株式会社 代表取締役社長 木庭 竜一